平成24年度第2回生駒市子ども読書活動連絡調整会議会議録（要約）

日時：平成25年2月7日（木）午後2時00分から

場所：図書会館 実習室

【参加者】岩崎れい、松田孝一、平井富久子、森田桂子、島谷佳子、山中和幸、
奥本恵、伊東英治
(欠席) 安田潤子、真銅宏、松本陽子

【事務局】向田真理子、平澤佐千代、清水淳子、春名己容子（以上図書館）

1 開会

2 案件

(1)平成24年度事業報告について

◎事務局からの報告

- ・附属機関等の見直しに伴い、当会議も名称を子ども読書活動連絡調整会議と改め、懇談会として新たなスタートを切ることになった。
- ・**第1回会議(11月2日)** 学校図書館司書8名も参加。事務局からこれまでの経緯や取り組み等の説明の後、学校図書館司書(小・中担当各1名)から活動報告を受ける。会場に展示した各校での活動状況を紹介する掲示物を見学の後、学校図書館司書と当会議の参加者とで意見交換。
(生駒市ホームページ参照)

(2)平成25年度事業計画について

◎事務局からの提案

“市内学校図書館の見学”

- ・学校図書館司書全校配置後の学校図書館の現状を視察。訪問先は、上中学校とあすか野小学校を予定。訪問時期、視察内容等については次回検討。学校図書館司書の参加については要調整。

※学校図書館司書は平成23年度より、小学校12校、中学校8校の全校に週1日配置。(計7名)
平成24年度より、1名増員、大規模小学校2校は週2日配置。(計8名)

◎参加者からの意見

“保護者ボランティアの活用”

- ・学校図書館を活性化していくために保護者ボランティアがどう関わっていけばいいのか、学校側はどう働きかけをしていけばいいのか、活動内容や周知の方法等、模索し

ていきたい。

“地域との連携”

- ・生駒市の子ども読書活動の推進は、色々な立場の人たちが連携、協力し、環境が整いつつある。一方、各家庭の子どもの学力向上への意識が高く、勉強に多くの時間を割いているため、子どもが読書の時間を取りにくい一面もある。学校の努力だけでは成果を挙げることは難しく、これからも地域の人たちの協力が必要。

“学校や司書教諭の取組み”

- ・学校図書館司書だけではなく、司書教諭の活動や、各学校の読書週間の取組み等を知りたい。来年度実施予定の学校現場の見学は、貴重な機会で大変有難い。

※ 参加者からの各意見については、来年度以降の会議で、改善・解決に向けて話し合いを続けていくこととする。

(3) その他

◎子ども読書活動推進フォーラムの案内

2月27日(水)14:00～16:00 図書会館にて開催 (県主催・生駒市図書館共催)

テーマ：生駒市学校図書館司書の小中学校全校配置について

担当教諭・学校図書館司書・生駒市図書館からの事例発表あり

◎学校図書館と公共図書館との連携の事例発表

昨年近畿および県内の学校図書館の研修会で市内中学校教諭が発表したデータをお借りし、生駒市図書館の学校図書館担当職員が事例を紹介

【「魅力あふれる学校図書館は公立図書館との連携から」(パワーポイント)】

- ・中学校図書館と生駒市図書館との連携に至った経緯。
- ・実際の連携内容(ブックトークや絵本の選び方・読み聞かせ講習会等出前授業の様子、学校図書館司書の活動内容、生駒市図書館作成のブックリストを使った団体貸出や読書推進の取組み、学校図書館再生への協力、生駒おはなしの会や保護者ボランティアとの連携例等)

(発表に対する参加者の感想)

- ・学校図書館司書配置後の学校図書館の実態がよくわかった。

- ・自分の学校で何が出来るか、ボランティアとの連携等についても考えていきたい。
- ・中学校に比べて、小学校では図書館担当教諭が集まる機会が少ない。連絡会等の仕組みを今後作っていきたい。
- ・学校図書館司書が入る前の学校図書館の様子を知っているので、努力の跡がよくわかる。事例では南中学校の取組み(生駒市図書館司書による出前授業で絵本の選び方、読み聞かせの仕方を学んだ生徒が、実際に幼稚園に出かけて行って園児への読み聞かせを体験する)が紹介されていたが、大瀬中学校では生徒が手作り絵本を作成し、幼稚園で読み聞かせた後、文化祭で保護者に披露するという取組みをしている。
- ・光明中学校では、生駒おはなしの会によるミニブックトークを含むおはなし会の出前授業が続いている。中学生は精神的に大人で、落ち着いて聞いてくれる。ブックトークの需要は増えているので、依頼があったときに対応出来るように研鑽を重ねている。
- ・学校図書館が昼休みにあんなに利用されていることに驚いた。学校図書館司書も今の勤務体制では大変だろうが、連携してここまでこられたのはすごいこと。ブックトークは本来は司書の仕事。たくさんの本を色々な方面で知っている司書だからこそ出来ることだと思う。だが、司書も忙しいだろうから、手伝えることがあればボランティアが協力すればよいと思う。幼少期の絵本の読み聞かせから始まって、中学生まで、読書推進が繋がってきていると感じる。
- ・図書館担当の先生の意識が高く感心した。図書館を授業で使おうと考える先生は少ない。学校の先生から提案し、すそ野を広げてほしい。本は読めば読むほど大人になってからの生きる力になる。個人的には無理にでも読ませたいぐらいだと思っている。例えば一つの学校で、卒業までに少なくともこれだけは読んでほしいという本のリストを作って読ませればよいと思う。生駒は、学校と公共図書館、地域との取組みがうまくいっている。各学校の最寄の図書館施設（本館・分館・図書室）をうまく利用できれば他市町村にない試みができるのではないかな。

(その他の意見)

- ・学校図書館では読みたい本は貸出中のことが多く、また生駒市図書館の分館は5時までなので、部活が終わってからでは利用できない。市内の図書館をどこでも気軽に使えるように、分館・図書室の夜間開館なども考えてもらいたい。
- (中学校長)下校途中に図書館に立ち寄ること、帰宅後一人での外出は安全上問題がある。夜間よりは土日の利用をすすめたい。
- (小学校長)下校時に図書館へ寄るのは学校としても推奨できない。一度帰宅して、親同伴ということになる。また、小学生は子どもだけで校区外に出てはいけないことになっているので、土日が開いていると保護者と一緒に利用できてよいと思う。

→(事務局)本館が夜間開館をはじめた時、近隣の中学生が塾へ行く途中に利用するのではないかと期待したが、思ったほど利用は伸びなかった。平成26年度に生駒駅前
に新しく開館する図書室が夜間開館する予定なので、テストケースになるのではな
いか。

→中学生は公共図書館がいつ開館しているのか、どんな本を置いているのかなど知ら
ない。中学生が利用しやすいように、機会を作ってPRしてほしい。

→学校図書館と公共図書館で、本の配列や分類の仕方を同じようにする等工夫すると、
双方の利用に壁がなくなる。

- 中学時代は一番読書量が減る時期、また利用したくても時間的な問題もある。
- 司書と教師とボランティアの連携、役割分担が必要。
- 中学生は受験等で忙しいが、読書をすることで学びを深めることができる。